

リスク管理

近年、「企業の社会的責任(CSR)」という言葉が頻りに耳にするようになった。多くの企業でCSR報告書が発行されたり、CSR推進部のような専門部署が設置されたりしている。CSRとリスクマネジメントの関係はどう整理できるだろうか。

◇ 例えは、製品に品質安

全上の問題が生じるとき、保護すべき個人情報が出たとき、その企業は「社会的責任に悖る」として世間からの批判に晒される。こうした文脈では、リスクマネジメントがCSRの取り組みそのものだという解釈も成立しよう。事実、多くの企業で、品質管理の徹底、苦情に対するきめ細かい対応、コンプライアンス教育、工場の安全

リスクマネジメント

ABC

企業リスクとCSR

対策、セクシュアル・ハラスメント防止などをCSRの一環として進めている。

ただ、こうした取り組みは今に始まったものではない。ここでは「社会が企業に対して抱く法

的、倫理的、商業的もしくはその他の期待に対して照準を合わせ、全ての鍵となる利害関係者の要求に対してバランス良く意思決定すること」という米国の企業団体BSRの定義に注目したい。ポ

イントは「社会が企業に対して抱く期待」だ。CSRとは「期待」に

「期待」に「肥満問題」への対応をあげよう。特に米国で

える、もしくは「期待」以

は「期待」以上の企業行動を指すという

ことである。逆にならうと

「期待」と「現実の企業行動」に大きなギャップが

「期待」と「現実の企業行動」に大きなギャップが

っている企業」が問題だ」と認識されるようになっていのである。

「そこまでの期待は行き過ぎ」という意見は当然あるが、消費者、従業員、株主が、そうした関心からの企業評価を行っ

て現実に市場で行動するようにしなければ、取り組みが遅れた企業の業績には悪影響が出てくる。まさに「期待ギャップ」リスクの顕在化である。

したがって、「回避」、「低減」、「受容」、「転嫁」等の通常のリスクマネジメント対策以上に、期待やそれとのギャップ

の「認知」という側面が重要になる。CSRマネジメントシステムにおいて

「ステークホルダー・エンゲージメント」という活動が重視される所以も、

ここにあり得るのである。

(日本総合研究所)

足達 英一郎 (上席主任研究員)

「社会への配慮」期待高まる